

# だるまがつなぐ やっさの輪

## ◆もう一つのやっさ踊り

8月2日(月)に開催されたやっさ踊りパレードの中に、湯河原のものとは少し違うやっさ踊りを踊る子どもたちの姿がありました。広島県三原市の小学生たちです。

三原市と湯河原町では、1年ごとに小学生がお互いの市町を訪れ、やっさ踊りの披露などの交流を行っています。

## ◆交流のはじまり

三原と湯河原の関係は、源頼朝の片腕として平氏と戦い、鎌倉幕府設立に多大な功績を残した「土肥次郎実平」から始まりました。

源頼朝の信頼の厚かった実平は、守護職として備後の国（現在の広島県東部）へ派遣され、その子孫が小早川という姓を名乗り、三原地方に拠点を築きました。その後、永祿10（1567）年に、小早川隆景が三原に築城し、三原は城下町として発展していきました。三原やっさ踊りは、およそ440年ほど前に隆景が三原城を築城したとき、その完成を祝って始まったと言われています。

こうした土肥氏と小早川氏のゆかりや、「やっさ踊り」を通じた交流をきっかけとして、昭和51（1976）年8月7日に三原市と湯河原町は、「親善都市」としてさらに交流を深めることを決めました。

## ◆だるまに込められた願い

現在のやっさ子ども交流は、平成8年に親善都市締結20周年を迎え、初めて三原市の小学生が湯河原町を訪問したことから始まりました。

親善都市やっさ子ども交流が15周年を迎えた今年、三原市から特産の「三原だるま」が湯河原町へ贈られました。このだるまには、両市町の今後の繁栄と、やっさまつりを通じた交流がいつまでも続くことを願って、「やっさ踊り」を踊る人の姿が描かれています。

このだるまが末永く両市町の交流を見守ってくれますように…。

## ◆三原の皆さん ようこそ湯河原へ ～小学生の作文より～

### 「約束」

東台福浦小学校5年 力石 太龍

ぼくは、遠い町「広島」の子とも友だちになりたいくて、三原市親善都市子ども交流に参加しました。

交流会に向けての1回目の打ち合わせでは、町内のほかの小学校の子たちと顔合わせのゲームをしました。ぼくはこの交流会で、三原の子のほかに湯河原町のほかの小学校の子とも話せるようになってうれしく思いました。

役割分担では、歓迎のことばのほかに湯河原町の紹介もすることになりました。特に、湯河原町の紹介は、「せっかく遠くから来てくれたんだから、湯河原町のいいところを知ってもらいたい。」と思い、家で何回も練習しました。

交流会がはじまると、この気持ちより、初めて会う三原の子に緊張して、話しかけられませんでした。それでも、三原の子の方が名前やゲームのことをいっぱい話してくれて、ぼくもうれしくなっていっぱい話せるようになりました。広島弁で話されると分からないこともあったけど何となく伝わってきました。時間がたつてくると、三原の子はだんだん標準語に、そして、逆にぼくが広島弁風になってきて変な感じはしたけれど、とても楽しい時間が過ぎていきました。

2日目は、最初から仲良く話せました。内容はやっぱりゲーム。

でも、時間はあっという間に過ぎて、もうお別れの時間。ぼくは「やっとなんか仲良くなったのに。あと1日ぐらい、いればいいのに。」と思いました。

熱海駅に向かうバスの中で、三原の子が「また来年も交流に参加してね。今度は三原に来てね。」と言ってくれました。

ぼくも「うん。絶対行くからね。」と約束をして別れました。

ぼくは、今からこの約束を楽しみにしています。

